

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2000年9月
No.24

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2000年5月の報告と予定

- 5月～6月 移動図書館活動のビデオ作り(南ア・ユネスコ制作)
- 5月 西ケープ州へ本4320冊と地球儀3個を送付
- 5月 南ア・ハウテン州へ車2台送付
- 7月 車10台送付記念レセプション
- 9月 中古移動図書館車1台入手
- 9月 西ケープ州で移動図書館運行開始予定

目次

南アダーバンのNGO・ELETからの報告.....	2
南ア移動図書館車10台目送付記念レセプションに参加して...	4
順調に進む南ア現地の図書館活動.....	6
会員からの便り.....	7
平成11年度会計報告・お知らせ.....	8
新聞記事より.....	9



移動図書館の本を借りる小学生 南アのハウテン州

TAAAの送った本を使った学校図書館指導プログラム 南ア ダーバンのNGO・ELETからの報告

※ELET=English Language Educational Trust

2000年6月28日

野田千香子様

皆さん元気であることと思います。

教員たちのために寄贈していただいた本に対して大変感謝します。教員たちはあなた方が送ってくださった本を役立ててきました。学校図書館アウトリーチ研修プロジェクト(SLOT Project)は、順調に進んでいます。教員の意欲はとて強く、他の教員にワークショップに参加するよう勧める教員もいます。

南アの学校プログラムは今年変わりました。教員は学校の授業時間内に何かに参加することを許されません。何かする場合は放課後でなければなりません。私たちはワークショップを毎月第二土曜日の8時半から13時半まで開いています。今年関わっている教員の多くは、このプログラムは初めてという人たちです。現在のところ、52人の教員が学校を代表してきており、その人数は増加しつつあります。

ジュリアがイズクリセのプロジェクトをやっていたことを憶えておられると思いますが、彼女が今年のはじめに ELET を去る直前に、昨年 SLOT に参加していた教員たちの何人かと連絡をとりました。彼らは SLOT において最も優秀で、今度は SLOT のワークショップの協力促進員としてボランティアをしています。できれば、来年もそうします。彼らは7人いて、とても一所懸命、献身的にやっています。彼らはボランティアの委員会さえ作っています。以下の人たちです。

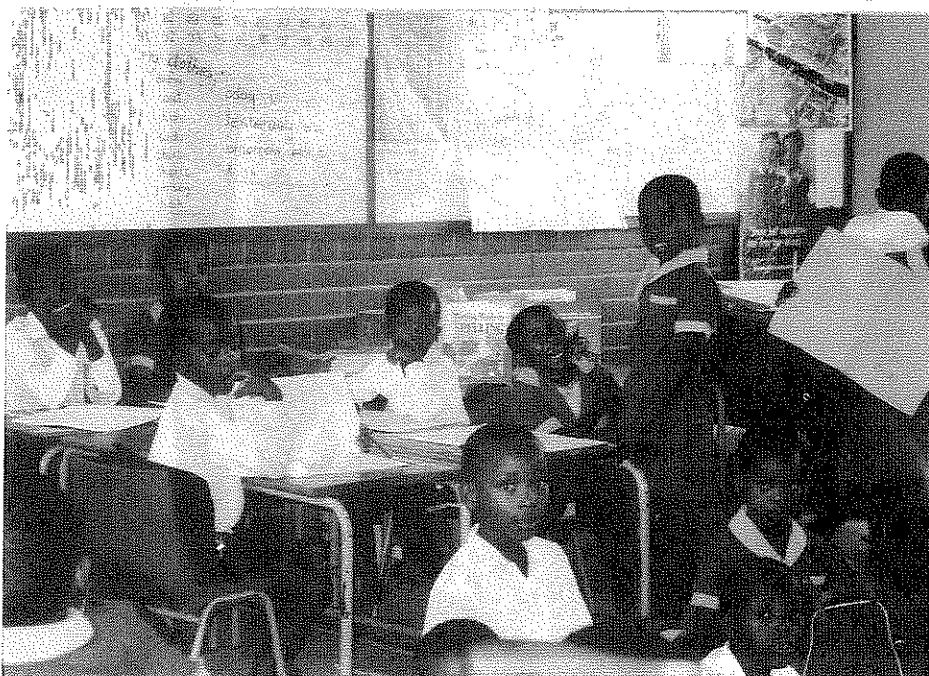
Ms Ningi Ndlela	Chairperpson	Ikusasalentsha P School
Ms Lolo Ngwenya	Secretary	Nhlanhiyethu P School
Ms Tutu Hadebe	Vice-secretary	Inanda Glebe J P School
Ms Nomsa Zulu	Treasurer	Nkulisabantu J P School

補助会員	Ms Nonhlanhla Manqele	Inada Glebe J P School
	Ms Dudu Dlamini	Phangisa C P School
	Ms Babongile Gumede	Maphumulo J P School

SLOT の進行状況を添付します。

敬具

ググ・ニヤツンバ



ダーバン郊外イナンダ小学校ブックコーナーに
日本から送られた本が置かれている

SLOT プロジェクトに関する報告書

※SLOT = School Library Outreach Training

ググ・ニヤツンバ

ワークショップは毎月第二土曜日の8時半から13時半まで、ELET の事務所で開かれる。全てのワークショップは、過去の SLOT の参加者である、7人のボランティアの協力を得ながら促進されている。その協力促進員たちはワークショップの前日までに、2度集まって計画を立てる。

ワークショップの中で行われている研修の内容

■第1回ワークショップ 2000年3月18日

焦点はこのプロジェクトの目的、導入、協力促進員の役割であった。毎月のレポートと返却されたレポートの重要性が強調された。ELITS(州の図書館情報局)のシフォ・ロンボ氏が招待講師であり、意欲を促すスピーチを行った。

■第2回ワークショップ 2000年4月15日

このワークショップでは、教室に作る本のコーナーの作り方に焦点が置かれた。本のコーナーは、本棚に見立てた箱あるいは即席の蓋付きの箱を使うものだ。ノムザ・ズル女史が理論と実際を説明した。

- ・ 学校図書館委員会の形成—参加者には、学校図書館委員会の構成、会議、方針、議事録、図書館モニター、教員と校長の役割について書かれた資料が配られた。
- ・ 図書館用語—小説、ノンフィクション、参考書等
- ・ 練習—計画作りの段階(短期計画)を参加者に認識させながら、アウトカム・ベース・アプローチの中での読書活動。

ワークショップの終わりに、参加者には自分たちの学校図書館で使うため、日本からの本を選ぶ時間が与えられた。

■第3回ワークショップ 2000年5月13日

このワークショップは、TAAA の本を実演に使いながら、分類法を扱った。

図書館用品の実演—ブック・ポケット、貸出券、貸出トレイ、学校印、貸出期限表、受入登録機について。

受入—本を登録したり、書誌事項を記録したりするときの手続きについて。各参加者は宿題として受入登録機を与えられ、

前回のワークショップで選んだ全ての本を登録した。この練習は、参加者が受入登録機を理解したかどうかを示す。

分類と受入登録についての練習。

上記の図書館用品は ELITS のシフォ・ロンボ氏から寄付され、教員たちに図書館や教室の本のコーナーで使うようにと与えられた。

■第4回ワークショップ 2000年6月10日

このワークショップは、資料を宣伝と共にさまざまな問題において他の人を援助することができるために、図書館の本を吟味する重要性を扱った。新聞を読むことの重要性も喚起された。そしてカリキュラム2005についての記事のコピーが配られた。参加者は、生徒たちが南アフリカの休日についての意味を知る必要があることを知った。6月16日、参加者の図書館コーナーに貼るために資料が配られた。

日本の TAAA からの資金

ジュリアは我々が、協力促進員がワークショップで使うための本を買うことを提案した。2,000ランド(約36,000円)がそれらのために使われ、彼らはそれぞれ教本と、教員のためのガイドと、学習書のセットを与えられた。

22,000ランド(約40万円)は SLOT の教員のための、主に読みものと参考資料を買うために使われた。教員のほとんどは、初歩の段階にあり、我々は基本と中級段階のために、そしていくつかの上級段階の本を買うことを決めた。

注文は Maskew Millar Longman, Juta Co.と Shouter and Shooterに出された。現在のところ、Maskew Millarからの本は受け取った。残りのものが届いて配るのを待っているところだ。

日本からの本は主に上級段階または高等学校のためのものだ。高等学校の教員はそれらの本を大いに利用している。最近のワークショップで我々は分配について話し合った。教員たちは生徒たちは現在たくさん読むようになり、本のコーナーをととても楽しみにしていると報告した。

契約書と報告書は提出され、図書館費の30ランドは既に支払われた。

(訳:工藤睦子)

南ア移動図書館車10台目送付記念レセプションに参加して

千葉 愁子

1992年、南アフリカの女性活動家と野田さんの出会いから始まったTAAAの活動。2000年を迎えた今年、既に10台の移動図書館車と17万冊に及ぶ本が海を渡っている。

去る7月9日（日）、埼玉県北浦和労働福祉会館にて、10台の移動図書館車送付を祝うレセプションパーティが開かれた。思いがけずマカドゥズィ南ア大使夫人とメンバーニ参事官兼領事も参加され、TAAAの活動が確かに日本と南アを繋いでいるとの思いを新たにした。

当日の参加者は20人余。活動の当初から精力的に参加してきた人、仕事の出張先から直行で立ち寄った人、実際に図書館司書として南アに行った人、新しく活動に参加している人。そして当然ながら、当日出席されなかった多くの支援者の方々。そんな人々のそれぞれの思いが感じられるような、TAAAらしい手作りの良いパーティだったと私は思っている。

10台の車の全てが現在稼働中というわけではない。車の維持費や南ア政府からの車両認定証など

解決すべき問題は尽きない。しかし、単に移動図書館としてだけではなく、集まった子供達にワークショップを行う場としての図書館車の新たな可能性も伝えられ、図書館車の活躍は今後も増えそう。 「NEW BEGINNINGS(新たな始まり)」という南ア初の黒人労働者によるワインを皆で試飲したが、このワイン同様TAAAの活動もこれから新たな展開を見せるのではないだろうか。その時にも、この祝いの輪の中の一人としてこの会に関わり続けていることを願っている。



写真ノ

上 当日の様子

右 左より

千葉愁子、
南ア大使夫人、
メンバーニ参事官



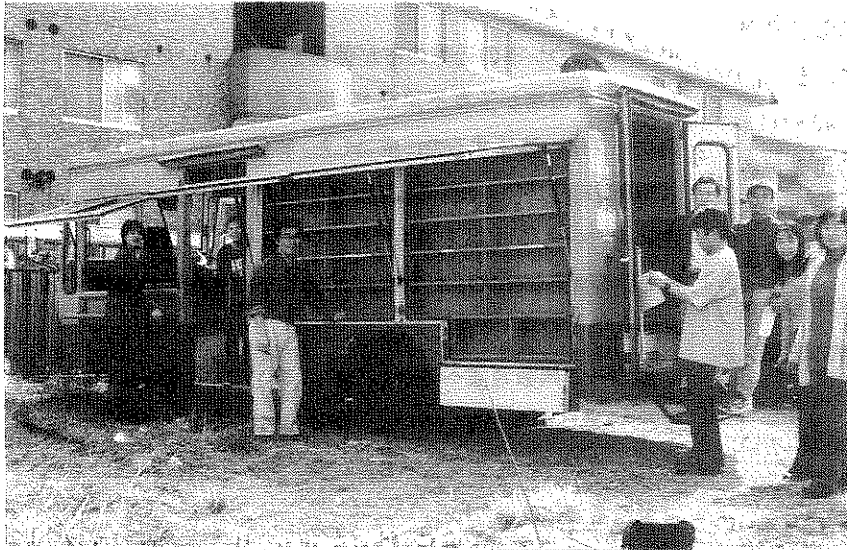
◆TAAA南ア寄贈移動図書館車一覧（2000年9月現在）

表作成 / 浅見 克則

	元使用者	第1受取者	現使用者	車名	現状
1	越谷市	ELET	ハウテン州	いすゞ	移動図書館
2	日野市	スプリングス市	スプリングス市	日野	教育委員会が使用
3	狭山市	ELET	ハウテン州	日産	移動図書館
4	松伏町	MEI	MEI	三菱	移動図書館
5	練馬区	MEI	グラハムタウン市	トヨタ	移動魚類博物館
6	所沢市	マシフンデス	西ケープ州	いすゞ	移動図書館
7	所沢市	マシフンデス	西ケープ州	日産	移動図書館
8	浦和市	ハウテン州	ハウテン州	三菱	移動図書館
9	埼玉県立熊谷	ハウテン州		日産	入国審査中
10	飯能市	ハウテン州		いすゞ	入国審査中
11	三郷市	クワズールナタール州		三菱	免税許可待
12	上里町	未定		いすゞ	当会保管中

- 追記 1. ELET=English Language Educational Trust . 在ダーバンNGO
 2. MEI =Methodist Education Initiative. 在デベトンNGO
 3. マシフンデス=在ケープタウンNGO

4. 各州=教育省
 5. 各市=教育部門



ハウテン州へ送る前の車
 (浦和市使用)と
 TAAAのメンバー

1998年9月

デベトンのクジミセラ小学校と
 移動図書館車

2000年



順調に進む南ア現地の図書館活動

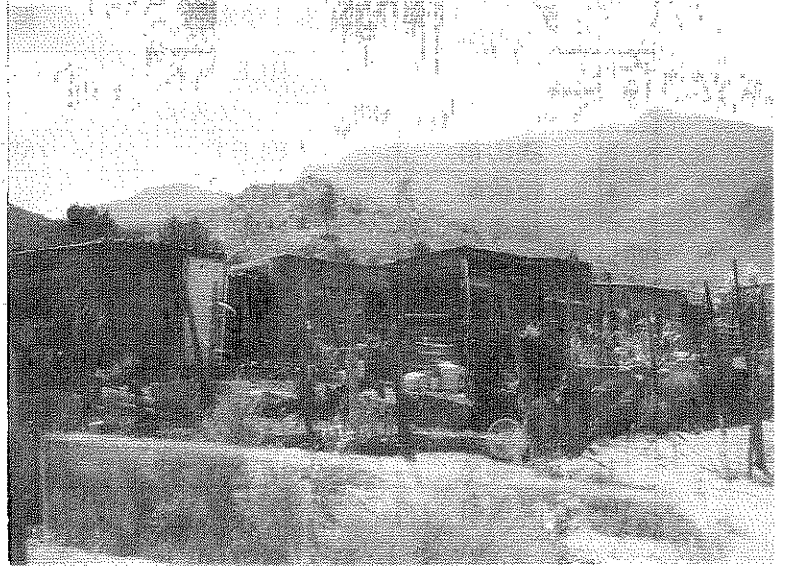
野田千香子

(1)南アのデプトンのNGO、MEIによる 移動図書館活動と本の配布

MEIは資金難の中で常勤の司書と助手と運転手を確保し、現在はデプトンの12の学校を巡回している。このうち、7校については、2月にTAAAが訪問している。学期平均の学校への貸出数は約5千冊。地元の白人高校の財団から資金援助とTAAAから図書整備費等の援助で稼働している。

TAAAからの訪問時には、各教室に移動図書館から借りた15~20冊の本がコーナーに置かれ、大いに利用され、喜ばれていることがわかった。

また、送った本のうち、一部は移動図書館車の巡回しきれない地域の18校に各200冊ずつ配布された。



西ケープ州で日本からの移動図書館車が

近く運行開始となる地域の住宅

(2)ハウテン州教育省による移動図書館

ハウテン州の場合は運行に関する費用は州の教育省が用意できるので、TAAAは車を提供することとどめている。

現在TAAAからの車が3台、プレトリアを中心に40~50kmの範囲の各地域に巡回している。州の図書館の司書が各車に数人ずつ係わり、学校単位に巡回している。2月にTAAAは、シヨシヤングベ地区とオレンジファーム地区を図書館車と共に訪問。モコニヤン小学校では図書館員と教師合わせて20人と会議を持つ。移動図書館の目的と具体的な方法を指導する。

生徒はじめ、教師たちは図書館車を大歓迎して感謝していた。もともとそれらの学校では、本が皆無であった。

その後昨年より10ヶ月待たされた免税許可が5月におり、6月にハウテン州に2台送付することができ、現在南アに到着している。これを含めると5台の移動図書館車がプレトリアを中心に稼働することになる。

(3)西ケープ州の移動図書館の実施状況

ケープタウンのNGOマシフンディスに1999年5月に発送した本が、スタッフの手でケープタウンの周りがある広大な黒人居住区の10数校に配布されているのを2月の訪問時に西ケープ州の図書担当官ジューンと共に確認した。

ケープタウン市の近郊の市が運行を予定していたTAAAからの2台の車が予算不足等で、据え置かれているのを、西ケープ州へ移管するのに成功した。移管に関してはユネスコの菊川穂氏による調査、交渉等の尽力に負うところが大きい。西ケープ州では予算も付き、スウェーデンの援助も受けている強力なNGO、エルギン・コミュニティカレッジが主体となって9月以降、運行に入る。

西ケープ州教育省へ送付した本については大変役に立つという喜びの声が届いている。教育省図書情報部の職員とNGOの手で近隣の学校へ8月以降、配布される。一部は移動図書館に使用される。

(4)クワズールーナタール州の 新たなプロジェクトについて

今年2月にクワズールーナタール州の教育省担当官とTAAA2名と南アユネスコ菊川氏が車送付と移動図書館プロジェクトの手続きと運行責任を確認、帰国後手続きを開始。免税許可入手も間近の予定。

(5)ダーバンのELETの状況について

送られてきた報告(p. 2~3)をご覧ください。



会員からの便り

本は時間を奪い、空間を奪い、金を奪い、視力まで奪う。その上結構重い。まことにやっかいな代物であるが、不要になってもごみとして捨てにくい。その本との今までのつきあい、思い出というものがある。それが英語の本ならごみにならずアフリカにわたって新しく人の役に立つ。

野田さん宅に集まった英語の本を定型の段ボール箱に梱包し直す。このパッキング作業がだいたい月に1回、10時から行われる。集まるのは5、6人くらい。割合単調な作業である。ブツブツぶやいているのは梱包している本の数を数えているため。本の大きさに応じて中6冊、小36冊といった調子である。あとは重さを量って行き先のアフリカの町の名を紙に張って一丁上がりである。1つの段ボール箱の重さが平均して20kg強くらい。一時物置に移動して運送業者を待つばかりになる。

こういう箱が1日の作業で50~60個くらいできる。足し算をすればトン単位の量である。ブツブツ数えた本も今までトータルすれば17万冊をこえている。

アフリカの人々とどんな新しいつきあいが始まっているのか、楽しい想像である。作業後の疲労も心地よい。

下谷房道

2年前に、タウン誌でTAAAの活動を知り、参加しました。それまで、なにか海外のためのボランティア活動に協力したいと思っていましたが、機会がありませんでした。1~2ヶ月に1度位、本の梱包作業の手伝いをしていますが、子供病院

の事務の仕事をしている私にとっては、ちょうど良い内容と頻度です。TAAAのスタッフは皆、自分の生活のために働きながらその余暇で活動してきましたが、継続する事でこれだけの事が実現できたのはすばらしい事だと思います。私はまだ南アへいった事はありませんが、いつか子供たちが本に向かっている表情をじかに見たり、先生たちと話しをしたりしに南アを訪れたいと思っています。

森下 葉子

作業は1ヶ月~2ヶ月に1度くらいですから負担にならず、定期イベントの講演会や報告会は楽しみのひとつです。作業では年齢、国籍を越えていろいろな人に巡り逢えます。現在は主人の仕事を手伝っている関係上、作業や会合に参加できませんが、会報の封書の住所シールの印刷管理を担当して、TAAAとの首がなんとかつながっています。ボランティアは別に大袈裟に考えなくても寄付をするとか、TAAAのように学校に本を引き取りに行くとか、翻訳をするとか、無理をしなくてもできることをすればいいと考えています。

小宮山明子

新聞記事がきっかけで「広報の送付」のお手伝いをさせていただいていますが、スタッフの皆さんの地道な活動で、本ばかりでなく、移動図書館車まで送ってしまうなんて…その一端のほんの少しに私も関わっているのかと思うと、うれしく、これからも「歩む会」のお手伝いを続けたいと思います。

井出利江

※ 皆さんも近況などお知らせください

活動紹介ビデオの制作、着々進行中！

南ア・ユネスコ事務所と協力してTAAAの活動紹介ビデオの制作に携わることになった。南アと日本での活動を紹介するビデオをそれぞれが制作し、合体して1本にするというもの。私の担当は日本側制作部分(約10分)である。5月~6月に6か所で撮影した素材は合計5時間！これをたった10分にまとめるというのは酷な話だ。初めてTAAAの活動に触れる南アの人たちが見て、10年間の軌跡をわかってもらえるのか。活動紹介だけでいいのか。どんなメッセージを吹き込めばいいんだろう。迷いと焦り。横浜港では荷積み邪魔だと怒鳴られ、腕時計まで海に落とした。ちょっと後悔。

いま(8月下旬)は構成表が完成し、英訳原稿を考えているところ。間もなく完プロ作業に入れそうな状況で、遠いながらもゴールが見えてきた。出演してくれた6人の皆さんと2台の移動図書館車、1隻の船には何とか顔向けできそうだ。

あと少しがんばろう。

【ビデオを見る前に、ここだけのタネ明かし】

野田代表の回想シーン → 公文教室での作業風景 → 商船三井・柴山元副社長の談話 →
アメリカンスクール・スザンヌ早瀬さんインタビュー → 移動図書館車駐車場ロケ →
横浜港・船積みシーン → 全員集合

小松 浩

平成11年度
「アジア・アフリカと共に歩む会」会計報告
 (平成11年4月～平成12年3月)

収入		支出	
前年度繰越金	4,181,421	本輸送費	329,238
寄付金	1,360,987	通信費	243,598
物品販売	46,500	交通費	17,629
講演料	59,750	講演会・会議費	20,413
郵政省配分金	3,107,000	印刷費	143,002
埼玉県国際交流協会	55,000	事務費	107,622
預金利子	3,825	図書館車諸経費	542,974
		現地活動援助金	2,482,000
		現地視察費	532,248
		雑費	16,000
		返還金	519,230
		次年度繰越金	3,860,529
	8,814,483		8,814,483

上記の通り報告いたします

平成12年3月25日

会計 山田 玲子
 会計監査 吉田 妍子

付記:

5年間郵政省のボランティア貯金の配分金を受けてきましたが、いくつかの理由により今年は申請しませんでした。現在は個人や企業や学校等への寄付金の依頼、他の助成金の申請に力を入れています。繰越金が多くなっていますが、今年度の南ア現地への送金予定分を含んでいます。

お知らせ

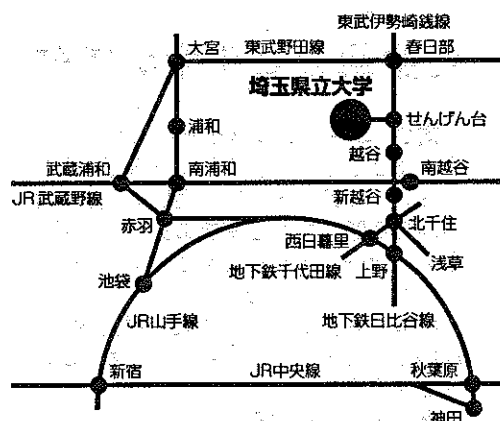
◆埼玉県立大学学園祭に参加

TAAAの南ア図書館活動報告と写真展示をします
 送付予定の移動図書館車の展示もあります
 皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加ください

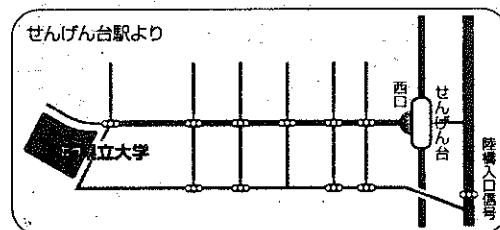
とき **10月28日(土)、29日(日)**

ところ **埼玉県立大学**

☎343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地
 ☎0489-71-0500(代表) ☎0489-73-4807
 URL <http://www.spu.ac.jp/>



●東武伊勢崎線せんげん台駅下車。地下鉄日比谷線直通。
 西口よりバス5分・徒歩20分





躍る活字 輝く目

日本の中古移動図書館 大活躍

【ヨハネスブルク17日三
角真理】本が好きなのはだ
あれ? 「ハイ」。移動
図書館車に集まっていた50
人の子どもの手が一斉
に挙がった。南アフリカ・
ヨハネスブルクから東へ車
で1時間足らずのハウテン
州デベトン。日本で現役を
退いた中古の移動図書館車
が今こそ活躍している。
寄贈したのはNGO「ア
シア・アフリカと共に歩む
会」(埼玉県与野市、代表
・野田千香子さん)。これ

南ア NGO が寄贈

まで中古図書館車8台と英
語の古本約17万冊を南ア各
地に贈ってきた。デベトン
の図書館車は関東地方で廃
車になったものを5年前に
送り出した。
図書館車は約1万100
0冊を積み、地区内の小学
校12校(児童数約1万人)
を巡回している。この日、
図書館車はニールカナ小学
校を訪れていた。同校の図
書室の蔵書は約600冊
で、約800人の児童には
行き渡らない。
車の周りは50人の子とも
たちでいっぱい。カニン
ちゃん(10)は「家にある私

移動図書館の車内で本を選ぶ子どもたち。南アフリ
カ・ハウテン州デベトンで、大橋公一写真

の本は3冊。だからこの日
がすごく楽しみ」とニコニ
コ。「借りた本を家で毎日
2時間読んでいます」という
スレーレ君(14)は「夢は
弁護士」と話してくれた。
野田さんは「子どもたち
のために少しでも力になり
たい。私たちの活動を通じ
て、世界の人を思う気持ち
が日本で広がればうれし
いと話す。問い合わせは、
野田さん(048・83
2・8271)。